編集後記

診察が終わり、診察室を出て行く患者さんに「それでは良いお年をお迎え下さい」と声をかける時期になり、年の瀬を実感します。「それでは良いお年を...」という言葉の中には、また来年元気なお顔を拝見させてくださいという気持ちがあり、私自身こうしてまた新たな年を迎えられる事を感謝する気持ちも込めています。患者さんには常に一期一会を意識してお会いする様にしていますが、特に年の瀬にかけるお互いの言葉には一種独特の感慨があります。医者と患者さんという立場を少し越えて、人間同士でお互いの奮闘を讃え合っているような不思議な感覚が涌いてきます。

今回は、第115回日本医師会臨時代議員会報告を玉城副会長に書いて頂きました。日医は広報の予算執行率が63.2％だそうです。日医が広く国民に理解されるためにはもっと広報への働きかけを重視すべきだと思いました。

九州医師会連合会各種協議会報告では、医療保険対策協議会に関して今山理事より、リハビリテーション日数制限の廃止や在宅療養支援診療所の現状、療養型病床における医療区分の見直し等について活発な意見交換が行われた事をご報告頂きました。また、介護保険対策協議会では小渡副会長よりご報告があり、地域包括支援センターの現状や介護療養病床の廃止問題に関して討議された様で、ベッドを6割削減し、その受け皿作りへの様々な模索が行われているようです。誤った選択をしないためにも、介護保険施行5年間の総括をしっかり行う必要性を強く感じます。地域医療対策協議会では、玉城副会長が次期医療計画の説明と、中小病院を如何に存続させるかという問題、今後の老人医療についてご報告して頂きました。今後のかかりつけ医のあり方に関して積極的なアピールがされています。

第13回県民公開講座報告では、骨粗鬆症をテーマに講演の様子や、その後の座談会の内容が掲載されています。700名余りの参加者で会場は熱気いっぱいでありました。会場の雰囲気が少しでも伝わると嬉しいです。

平成18年度第2回マスコミとの懇談会報告では、介護保険制度の改正により今後予想される問題に関してマスコミの皆さんと協議しました。在宅で介護する事が困難な沖縄の現状を鑑み、介護難民の発生が危惧される現状を話し合いました。いつしか議論は白熱し、ターミナルケアのあり方に関しても熱心な議論がなされました。

生涯教育コーナーでは、男性型脱毛に対するpropeciaの効果と副作用に関して新垣実先生に書いて頂きました。適応や禁忌、副作用の発現に関しても詳細にご報告頂いております。

今回のインタビューコーナーは、ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターが沖縄平和賞を受賞した事を記念して、より多くの紙面を割いて、琉球大学医学部歯科口腔外科の砂川元教授にインタビューしてまいりました。「今後の目標は？」との質問に、「栄えある賞を受賞して尚、地道に活動を変えずにやっていく事です。」とおっしゃった時は、私、大変感銘を受けました。

若手コーナーでは、琉球大学整形外科の大嶺啓先生から、若いドクターへ送る夢ある整形外科へのいざないを書いて頂きました。また、北部地区医師会病院の中安弘毅先生より、1年目研修医の初々しさが伝わってくるご寄稿を頂きました。

追悼では、花城清順先生より、安座間廉先生との思い出を書いて頂きました。業界を越えた沢山の方々との交流や、様々な楽しい思い出が綴られています。何しろその記憶の鮮明さに驚くばかりです。

リレー随筆では、沖縄県立南部医療センター心臓血管外科の久貝忠男先生に、超高齢者における心臓外科手術の適応に関して書いて頂きました。こんなトシになって心臓の手術なんて、という消極的な意見が本人や家族から聞かれる一方で、実際に危険な状態になったときに結局緊急手術になってしまうという現状。高齢化が進む一方で、今後益々議論を呼ぶ可能性のある問題です。高齢者に対する医療はどうあるべきで、どのような考え方を持つべきなのか、今後じっくり考えてみたいテーマです。

広報委員　玉井　修